

# 安達太良山山行記録



白糸の滝と紅葉

湯の花採取場を見下ろす

胎内岩をくぐる

目的地	安達太良山	期 日	平成22年10月22日(金)：曇りから霧
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	今年2度目の安達太良山だったが、再び展望なしで残念。

地点名	時刻	記 事
沼尻登山口	午前9:05発	沼尻温泉からスキー場内の林道を進み広い砂利の駐車場。7台あり。届けポストで入山者カードを記入。すぐに滝見台に上がる。紅葉が広がるがモヤッている。灌木が目立たないが、一部やや細尾根を進む。
船明神山分岐	9:35	直進の道を見送り左に大きく下って行く。硫黄川の河原を見下ろすが、河床が黄白く、火山特有の荒涼とした景色だ。
湯の花採取場	9:45	草津の湯畑に似ている。流れているお湯はちょうど良い湯加減だ。古くなって不安定な木橋を渡って対岸に渡る。ここから山道の登りが始まる。まもなく河原の中のへつり道と岩の道が交互となる。
沼ノ平分岐	10:10	平成9年に有毒ガスによる死亡遭難事故があった沼ノ平コースは進入禁止となっている。少し上の岩の下で男3人が湯を沸かしカップラーメンと早くも一杯やっていた。結局彼らは稜線まで上がらなかったようだ。追越して直ぐに我々も休み、おやつを食べる。通ってきた下は見えるが稜線方面はガスで見えない。
胎内岩	10:50	丸く標されたペンキマークを頼りに溶岩を迂回しながら登って行く。途中樹林帯を通過し、大きな岩がルンゼ状となっている。両側から迫る大きな岩に一人がようやく通れる穴が空いていて、ザックを外し這いつくばって通過する。
雨具上下着用	11:10	ハイマツが現れる。ガスが濃くなり寒さを感じ途中で雨具を着る。
石楠花ノ塔	11:20	ガレ場を進むとV字に剣を立てた大きなケルンの前が出る。
鉄山避難小屋	11:30~12:20	まだ新しく、集成材の梁の立派な小屋。女性3人が居た。靴を脱いで上がり、ラーメンに餅を入れて煮る。後、郡山からの年配男女6人隊が入室して来た。9人とも福島弁でイントネーションが楽しい。ランチを終え外に出たが、依然ガスが濃いものの、少し明るくなったようだ。
鉄山	12:35	鉄山のピークを踏み、少し戻ってトラバースする。右に左にと進路が変わり、展望も無く方向感覚が狂い、なんだかリングワンドルグに陥ったように感じる。
牛ノ背の分岐	午後1:00	馬ノ背の峰の辻への分岐を過ぎると間もなく登路の石に赤ペンキで「アタミ」と書かれ矢印がある。地図を広げて確認する。6月に登頂した時よりもガスが濃く展望は全く望めない。山頂を諦めて右に下る。右が切れていて噴火口をお鉢めぐりする道と思われるが、見えない。
船明神山付近分岐	1:12	石筵10km/安達太良山3kmの道標。右の沼尻に下る。この後樹林帯に入るが、喬木で狭く進み難い道が続く。
標高点 1641.2	1:42	道脇にコンクリート柱があった。通過。休める場所を選びながら進むがなかなか好位置がない。
雨具を脱ぐ	2:00~2:10	少し右の樹林が切れた所で立ち止まり雨具を脱ぐ。つかの間硫黄川が見えたが、すぐにガスに遮られた。
船明神山分岐	2:25	沢音が大きくなり、分岐に戻る。
沼尻登山口	2:50着	滝が望める所まで下りて来た。左斜面を見下ろせる岩の上で白河からの夫婦がくつろいで居た。勧められて上ってみる。展望が広がるが、曇りではさえない。滝見場に向かうカメラ趣味の年配大団体と出会う。

今年の6月29日にゴンドラ利用で山頂乳首に立ち、峰の辻コースで勢至平に下った。歩き始めから霧、そして小雨から本降りとなり展望もなくずぶ濡れとなって下りて来た。今回は紅葉時期に別コースで山頂を目指した。雨に当たることはなかったが、標高が上るにつれガスが濃くなって前回以上に視界が利かず、全く見えなかった。従って登頂は迷わずに断念した。もう一度行く機会があれば、晴れの日に塩沢温泉からくろがね小屋のコースを歩いてみたい。